

2016年4月1日（金）第4回『税・財政ゼミナール』が開講されました。

今回のテーマは『税制研究』NO.55より

- ①消費税の理論と歴史：シャウプ勧告と消費税：須藤信一
- ②仕入税額控除論：消費税の法的性質と仕入税額控除：小川正雄の2つです。

①では取引高税と事業税の概要、それに対するシャウプの考えをまとめ、報告が行われました。

②では消費税の仕入税額控除について、現在の帳簿方式の記載に関する法的解釈、帳簿方式とインボイス方式の比較等の報告が行われました。報告後は仕入税額控除の是非に関する質問等があり活発に議論が行われました。

今回のゼミナールでは、テーマの選定に関してなぜこの論文を選んだか、執筆者の主張は何か、発表者（チューター）の言いたいことは何かを明確にし、簡潔に伝えるべきとの意見がオブザーバー講師からありました。

次回は財政に関するテーマを学習します。テーマが新しくなりますので、税や財政に関して少しでも興味のある方、税や財政について知りたいと思われる方は、是非ご連絡をお願いいたします。

第5回『税・財政ゼミナール』

日時：2016年10月7日（金） 15：00～17：00

会場：東京都新宿区三栄町9番地 税研ビル2階

テーマ：『税制研究』NO.58 【特集号】日本財政をどうする より

① 政府の大借金をどうする：安藤実

② 問題提起のための2つの提案

-国債問題の徳政令的解決と北欧型の「大きい政府」の創出-：小谷崇

※ 参加ご希望の方は事前に電話にて参加の旨をお知らせください

TEL 03-3359-4731 （担当者：矢部、山本）